

群 教 セ	G09 - 03
	平 26. 254 集
	英語 - 高

自分の考えや意見を論理的な英語で表現 するための指導方法についての研究

—読む視点とパラグラフ・ライティングを導入して—

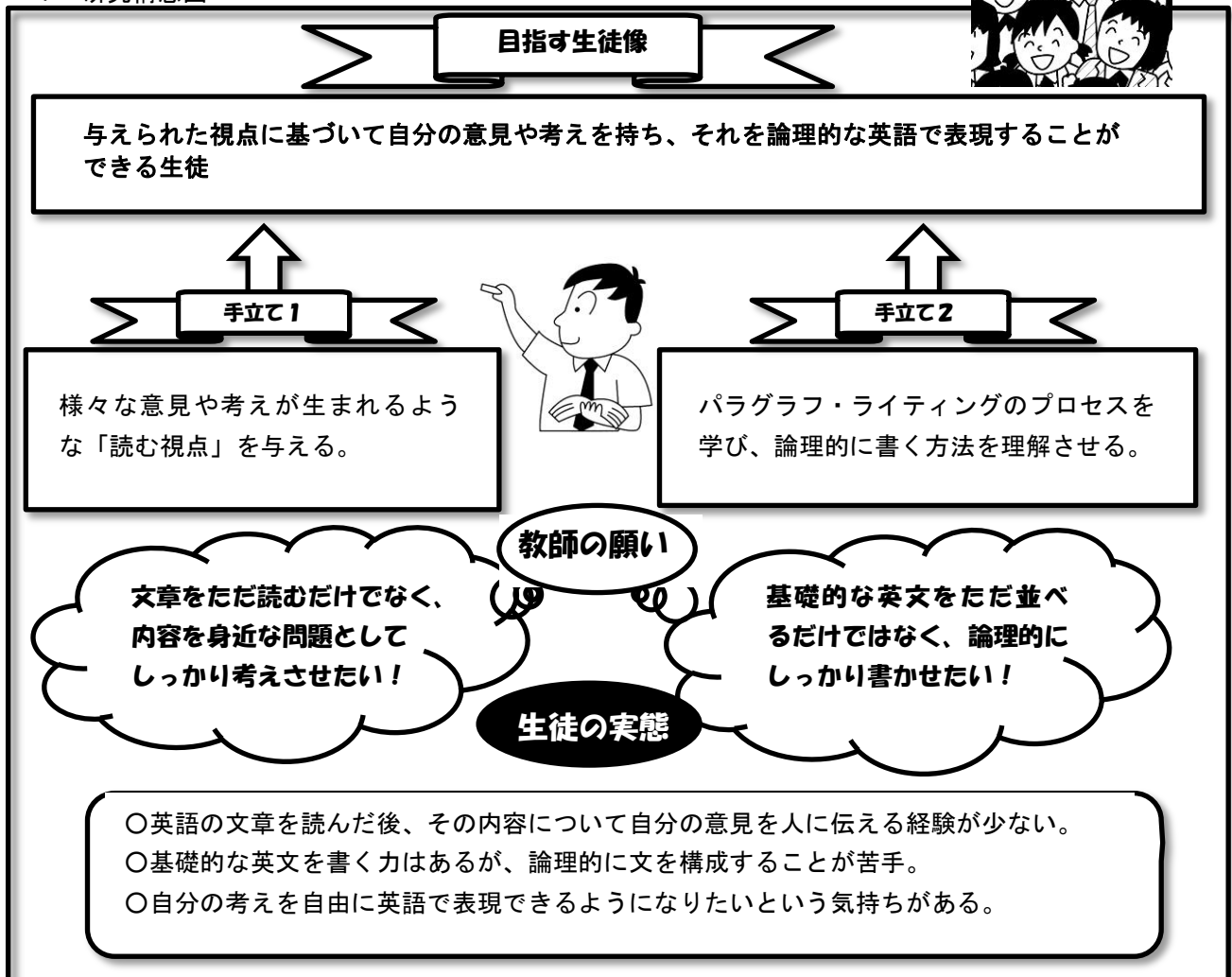
特別研修員 茂野 大樹

I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領外国語の目標には、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」とある。教科書の内容理解はもちろんであるが、その背景にある文化の理解や、筆者の主張を理解したり、またそれを読んだ上での自分の意見を適切に伝えたりすることが求められている。ところが協力校の生徒は本文のテーマについて自分の意見をなかなか書くことができないのが現実である。そこで、「読む視点」を与え、本文を批判的に読ませることで、生徒に自分の意見を考えるきっかけを作ることができると考えた。さらに、その意見を適切に伝えるために、パラグラフ・ライティングのプロセスを学習させることで、より論理的に考えをまとめることができるようになることを目指した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1)「読む視点」の提示（手立て1）

論説文を読んで筆者の主張に対して全て納得してしまうのではなく、教師側が「読む視点」を与えることで、その問題をより多面的に考えることが可能となる。授業改善の手立てとして、次の点に留意し、論説文を読む視点の与え方について研究した。

「読む視点」とは論説文と生徒一人一人をつなぐ橋渡しである。それを与える際には、論説文を身近なものとして捉えられ、また生徒一人一人が自分の考えを持つことができるように工夫することが必要である。具体的には本文を批判的に読ませることで、多面的な意見が生まれると考える。

(2)パラグラフ・ライティングのプロセス学習（手立て2）

自分の考えを論理的に英語で表現するには知識や技術が必要である。自分の意見を表現するために、まずは、基本となる文構成の方法や、図1のような、話の道筋を示す言葉であるディスコース・マーカーの使い方を理解させることが必要である。

次に、モデル文を提示し、それに基づいて生徒が英語で文章を書くことができるようにする。その際、モデル文だけでなく、実際に生徒の文章を書画カメラで提示することで、自分の英文と比較しながら書き直しをさせることにする。

<列挙>

• first / second / third / last

• also / moreover

<結論>

therefore / so

<例示>

for example / such as など

図1 ディスコースマーカーの例

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 論説文を「読む視点」を与えることで、生徒は、教科書本文の問題を多面的に捉えて読むことができた。
- パラグラフ・ライティングのプロセスを取り入れたワークシートを活用して論理的な意見を書かせたことで、全員がディスコース・マーカーを使用し、50語以上の具体的でまとまりのある文章を書くことができた。

2 課題

- 本文を読む視点を与え、内容について意見を書かせる活動は、どの論説文でも有効というわけではない。そのため、テーマの選び方や、視点の与え方に注意が必要である。
- アイディアをメモさせる際には、なるべく自由に考えを記述するという目的で、英語ではなく日本語を使って書かせた。しかしながら、実際に英語を書かせる際に、日本語で書いたことをそのまま英語に直訳しようとしてつまづいている生徒が多く見られた。

3 自分の意見を英語で表現する活動のさらなる改善に向けて

- アイディアを書き出す段階から英語で書かせることができれば、日本語から英語にする際の弊害が減るのではないかと考えられる。具体的には、英単語1語又は、フレーズで、思いついた意見を細かい英語のパーツとして書き出し、それらを既習の英文法や語法で結束していくという手法(マインド・マッピング)を採用することで、課題の解決につながると思われる。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 Lesson 1 Just an Ordinary Hero (Prominence English Communication II, 東京書籍)

2 本単元及び本時について

本単元では、台湾に住んでいる「2010 Asians of the year」に選ばれた一人である Chen Shu-Chu 氏の生き方や考え方について読んだり聞いたりした後で、彼女の生き方について自分の意見をまとめ、それぞれの意見や考えの共通点や相違点をまとめて相互理解を深めることが目標である。本時は自分の意見や考えを適切な英語を用いて表現することができるように、クラスが二つの立場に分かれるような「読む視点」を与えて、それぞれの立場から理由や意見を書かせ、グループ内で意見を発表させることとした。

3 授業の実際

まず、本単元を中心である Chen Shu-Chu 氏が自分のお金をほとんど寄付しているという本文の内容に対し、次のような「読む視点」を生徒に与えた。

読む視点 Ms. Chen donated much money even though she did not earn so much money.
Do you want to do the same thing as she did?

次に、生徒を YES 側、NO 側の 2 グループに分け、それぞれの立場から理由を考えさせた。

【手立て 1 に基づいた活動】

「読む視点」を基に、自分の意見を日本語で書く

課題① Topic に対する自分の意見を日本語で、箇条書きにして書く (図 2)。

課題② 同じ意見を持つ人同士でグループになり、日本語で意見交換を行い、自分が課題①の段階では気付かなかった意見をメモする (図 2)。

Your Position: Yes! I can donate them because...

課題① あなたの立場に基づき、Topic に対する自分の考えを日本語で列挙しましょう。

- ・ 必要にしては人に与えたい。
- ・ 困っている人を助けることが出来る。

課題② 同じ意見を持つ人同士でグループになり、グループで出た意見で、あなたが「課題①」に書かなかった意見を列挙しましょう。

- ・ 役に立つから
- ・ 苦しんでいる人を助けるため
- ・ 世界中のみんな幸せに住んでほしいから
- ・ 必要だから (困っている人のために使った方がいい)

図 2 意見を書き出すワークシート

課題①および課題②の活動で出た意見を中心に、適宜取捨選択しながら英文を書く。

【手立て 2 に基づいた活動】

モデル文をもとに、つなぎ言葉を用いて、まとまりのある英文を書く方法を学ぶ

○モデル文を示し、つなぎ言葉の使い方を紹介する。

○書画カメラを用いて、つなぎ言葉をうまく使用している生徒の英文を参考にし、さらに添削を基に、各自の英文を修正する (図 3)。



図 3 書画カメラで添削する様子

生徒に英文を書かせる前に、黒板で also, moreover, finally などのつなぎ言葉をモデル文で紹介した。その後、生徒に英文を書かせながら机間指導を行い、つなぎ言葉がうまく用いられている英文を、書画カメラを用いてスクリーンに映し、実際に添削を行いながら、更に良い完成した英文にするように説明した。

生徒の変容の様子

- 表1から分かるように、多くの生徒が自分の意見にグループで出た意見を組み合わせることで英文を書くことができた。
- 図5の作品例では、help という単語が6文中3回使用されるなど、似たような意見の羅列になっているケースも見られた。
- 全ての生徒がディスコース・マーカ―を適切に用いることができた。
- 平均 55 語の英文を書くことができた。



図4 グループ活動の様子

表1 グループ活動による意見の膨らみの様子

課題①の個人で考えた意見の文の平均	課題②のグループ活動で気付いた意見の文の平均	課題③で生徒が書いた英文の平均
1.4 文	2.0 文	3.5 文

課題③ 課題①②の意見を中心に、各自で下の英文に続けて意見をまとめましょう。その際、グループで出た意見は、適宜自分で取捨選択して用いましょう。

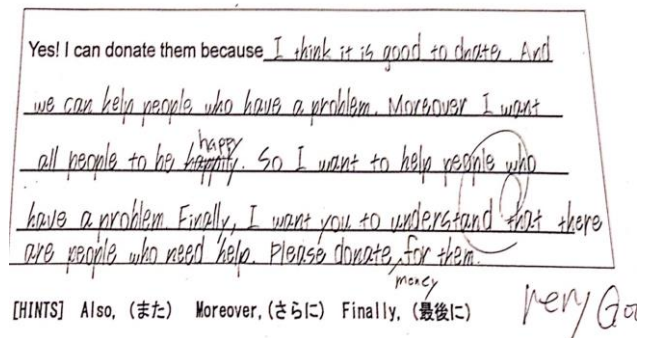


図5 生徒の作品例

4 考察

【手立て1】の検証：読む視点を与えることにより、生徒の様々な考えを引き出すことができたか。

- 一人当たり平均 3.5 文で意見を述べているので、ほとんどの生徒は自分の意見や、グループで出た意見を組み合わせながら、読む視点に基づいた意見を持つことができたと考えられる。
- 課題③で書いた英文において似たような意見の羅列が見られた。一つ一つの意見に具体性が乏しかったと考えられる。グループ活動によって意見を深めるという手立てにおいて課題が残った。

【手立て2】の検証：つなぎ言葉を用いて、まとまりのある英文が書くことができたか。

- 文章中のつなぎ言葉については 100%の生徒が適切な方法で用いることができた。事前の説明や書く活動で、他の生徒の英文を紹介することで効果が上がったと考えられる。

【手立ての成果と実践授業2に向けた課題】

- 生徒は「読む視点」を基にグループ活動を行い、論説文に対して自分の考えを3～4文の英語で表現することができた。しかし、それぞれの英文が似たような内容であったり、バラバラの意見を単につなぎ言葉で並記しただけのものあたりする様子が見られた。要因としては、一つの意見を具体的に深く説明するという点が不十分であったと考えられる。今後の取組では、自分の意見と、それに関連した具体的で説得性のある1センテンスを追加するという点を手立てとして取り入れていきたい。

また、実践授業1では、書く活動で終わってしまい、書いた英文を発表する場がなかったので、実践授業2では、発表まで手立てに盛り込んでいきたい。

実践 2

1 単元名 Lesson 6 Is the Internet Making Us Smarter? (Prominence English Communication II, 東京書籍)

2 本単元及び本時について

本単元では、近年急速に発達したインターネットによる読書と従来の紙面による読書の違いという観点から、読書の形態によって、発達する脳の神経回路が異なったり、またそれによって形成される思考パターンが異なったりすることを学ぶ。この事実を踏まえ、インターネットが私たちの生活をより良いものに行っているのかどうかという点について考察する。本時は、生徒の英文を基に、教師が添削の見本を示すことで、各自が自分の英文をより良いものへと修正し、さらにそれをグループ内で発表して、お互いの考えを交換することを目標とする。

3 授業の実際

実践授業 1 と同様、本単元のトピックであるインターネットが私たちの生活を良くしているのかという「読む視点」を与え、Yes 側、No 側の好きな方に分かれて、それぞれの立場から自分の意見を書かせた。

読む視点 Does the Internet make our lives better?

【手立て 1 に基づいた活動】

「読む視点」を基に、自分の意見を日本語で書く

- 与えられた「読む視点」を基に、自分の意見を箇条書きで書く(図 6)。
- 主題文に続くそれぞれの支持文に、補足説明となる追加の一文を考える(図 6)。

◆「実践 1」からの改善点◆

- ・実践 1 では、それぞれの支持文に具体性が欠けたため今回は、より説得力のある文章にするため、補足説明としてさらに追加の一文を書かせた。

例
I think the Internet makes our lives better. First, I can send emails. It makes me easier to tell my feeling easier. Second, I can find the news that I want to know. I can get it on the smartphone no matter where I am. Therefore, I think the Internet makes our lives better. (55 words)

議題
The Internet makes our lives better.

あなたの意見 (日本語でまとめる段階)

(賛成) 反対) どちらか○で囲む

① (便利 電もる せむえる)
さらに追加の一文)
→ (通話できる 時間が増えるのも 今の生活に役立つ)

② (色々な 場所から どの 時刻でも 動画を見られる)
さらに追加の一文)
→ (家族や 友人との やり取りが 楽になる)

③ (知りたい 情報 簡単に 調べることが出来る)
さらに追加の一文)
→ (どんな ことでも 簡単に 調べることが出来る)

Good

図 6 意見を書き出すワークシート

【手立て 2 に基づいた活動】

モデル文を基に、パラグラフ・ライティングのプロセスを学び、論理的な文章を書く

あなたの意見 (英語でまとめる段階)

I think the Internet makes our lives better. First, I can use a videophone. It helps me see your face and voice. Second, I can communicate with people all over the world. It makes me able to make friends who live all over the world. Third, I can find the news that I want to know. I can get it on the smartphone no matter where I am. Therefore, I think the Internet makes our lives better.

Teacher's comment 添削
大筋は良いが、内容のつながりをもう少し詳しく書くようにしてほしい。

図 7 教師による添削

- ◆実践 2 への改善点◆
- ・「実践 1」ではつなぎ言葉の使用にとどめたが、「実践 2」では、文構成の方法についても紹介した。
- ・「実践 1」では、自分の考えを英語で書くことで終わっていたが「実践 2」では、ペアでチェックしたり、グループ内で発表させたりした。

- モデル文を示し、つなぎ言葉や文構成について理解する。
- アウトラインにメモしたアイデアを英語で書く。
- 教師によって添削された英文を確認する(図 7)。
- 書画カメラを用いて、つなぎ言葉をうまく使っている生徒の作品紹介を見て文構成のチェックポイントを理解する。
- ペアで英文をチェックし、相互に感想を書く(図 8)。

Check Points (ペアの人がチェック(☑)を入れよう)

- ・ディスプレイを上手に使っているかな? (☑)
- ・内容がまとまっているかな? (☑)
- ・具体性があるかな? (☑)

ペアの人が記入 自分の英文と比べてどうだったか、一言メッセージ! (日本語 OK)

(名前)

説明の文がくわしく、分かりやすそうだった。
難しい単語も使っていていいと思った。

図 8 ペア活動でのチェックリスト

ペアチェック時の感想

- モデル文以外のディスコース・マーカーを使っている点がすごいと思いました。
- まとまっていて、読みやすい文章だと思いました。
- 追加の一文で（インターネットの）利点が述べられていて、なるほどと思った。
- インターネットの良さ悪い面の両面が分かりました。

【まとめの活動】

パラグラフ・ライティングのプロセスに基づいて書いた論理的な英文をグループや全体で共有し、考えを深める。

- 修正された英文を、色画用紙に書き直す（図9）。
- 完成した原稿を基に、グループで自分の意見を発表する。
- クラス全体での発表を行う。発表を聞いた後で自分の作文と比較して感想を書く。

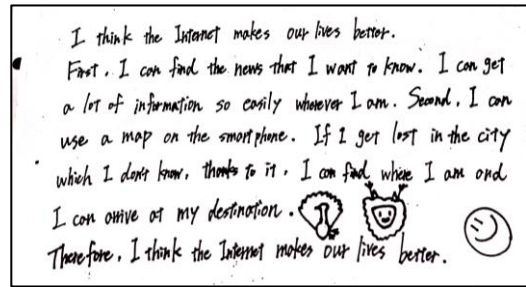


図9 発表原稿例

授業後の感想（他の人の発表を聞いて）

- 皆さんよい内容でびっくりすることもあった。
- 反対の意見も聞くことができてよかった。
- 自分にはなかった理由や発想があって参考になった。いろいろな文法を使えるようになりたいと思った。
- 自分の文は簡潔にまとめすぎていると思ったので、もう少し詳しく説明すればもっと良くなると思う。
- インターネットの良さ悪い面の両面が分かりました。

4 考察

実践授業1と比較した生徒の変容の様子

(1) 手立て1「読む視点」について

実践授業1では、意見の共有はできたが、似たような意見が多く出された。実践授業2では、生徒の感想に、相手の考えに対する驚きや発見を表す内容が多く見られた。

(2) 手立て2「パラグラフ・ライティングのプロセスを学び、論理的な文章を書く」について

実践授業1と2では、「読む視点に基づいて自分の意見を書く」「語数指定はない」という条件で英文を書かせたが、生徒の平均語数は、実践授業1の後では55だったが、実践授業2の後では69.5と大きく増加した。

【手立ての成果と実践授業3に向けた課題について】

実践授業1と比較して、生徒はより論理的で内容のある文章を書くことができるようになった。しかし、アイデアを出す際に、いろいろなアイデアが出るように日本語で書かせたが、その結果、日本語を直訳しようとして主語や動詞の語法に少なからず誤りが見られた。これを改善する手立てとして、アイデアを書かせる段階から英語で書かせることができればそのような弊害が減るのではないかと考えられる。自分の知っている単語や語法を書き出し、それをつなぐことで英文を作る方法を探ることを今後の課題としたい。